

自立活動の6区分が比較的色彩濃く目標設定された指導の事例を紹介します。自立活動の他の区分・内容や各教科等と関連して、課題設定と指導をしていることを前提にご覧ください。

「健康の保持」実践例 目標「排便のリズムを把握し、タイミングよく排便に向かう」

健康チェックシートの記入と考察

- ・生活に影響を及ぼすような不調について整理し、健康チェックシートの様式を作成する。
- ・毎日登校後に記入し、不調や排便への不安について教師と相談する。
- ・自立活動の時間に振り返り、体調の変化(良い、悪い)の原因を2か月に1回程考察する。
- ・必要に応じ、連絡帳、面談を通して保護者と相談する。

その日の体調や前日の排便状態について、丸を付けてチェックする。
不調が続いた場合、原因や対応について教師と相談する。

月 健康チェックシート				
日付	日(土)	日(日)	日(月)	日(火)
天気/予報/気温/湿度			/	/
睡眠時間			良 普 悪	良 普 悪
睡眠状態			普 少 無	普 少 無
朝食			良 普 悪	良 普 悪
体調			頭痛	頭痛
			腹痛	腹痛
			生理	生理
			その他	その他
排便	全曜排便 あり なし	土曜排便 あり なし	前日排便 あり なし	前日排便 あり なし
	学校 自宅 登下校	自宅 他	自宅 他	学校 自宅 登下校
	回	回	回	回
	1 2 3	1 2 3	1(普) 2(軟) 3(下)	1 2 3
	多 普 少	多 普 少	多 普 少	多 普 少
あり() なし	あり() なし	前日服薬 あり(包) なし	あり(包) なし	
		なしの理由	なしの理由	
イベント				
生活を振り返って				

「心理的な安定」実践例 目標「1日の活動の流れを朝に確認し、見通しをもって活動する」

スケジュールの確認

- ・朝の会では、1日の確認を行い、変更があった際にはホワイトボードに示す。
- ・必要に応じてイラストで示したり、演示したりする。
- ・学級に月ごとのカレンダーを置き、予め行事が分かるように前月に記入して示す。
- ・これからの活動を順にノートメモ帳に書き、読み上げて本人に渡し、いつでも確認できるようにする。何度もスケジュールを確認したがるときは、「次は何」と本人からの表出を促し、理解度を確認しながら行う。
- ・終わった活動には、「おわりました」と一緒に書くことを取り入れると、それを楽しみに活動に臨む様子が見られた。

「人間関係の形成」実践例 目標「気持ちを落ち着けて、いろいろな人と関わり合う」

意思疎通のための絵や写真カードの活用

- ・教師の意図が伝わりやすくするため、言葉掛けに加え、手がかりとなるよう学習内容や手順が分かる絵や写真が入ったカードを提示した。
- ・自立活動の時間に、児童が気持ちを伝える手段として、感情や行動、場所を示したシンボル絵カードや写真カードを使用した。[写真1]



・「のどかわいた」「おなかがすいた」「ほん よむ」

[写真1]

[写真2]

「トイレ いく」「かいだん いく」など。シンボル絵カードや写真カードを組み合わせることで、自分の気持ちが相手に伝わり、相手がそれに応える経験ができるようにした。[写真2]

「環境の把握」実践例 目標「進行表を自力でめくる」

視覚障害、手の感覚過敏の児童が、進行表を自力でめくるための支援

- ・視覚障害、手の感覚過敏の対応として、「触って嫌ではない素材（安心感）」、「手を動かし、触れると音がする仕掛け（変化が分かる）」、「提示する位置を一定にする（探索動作や活動の見通し）」を心掛ける。
- ・クッション製の「持ち手」が、テーブル上に固定された進行表と、「鈴付きの紐」でつながる仕掛け（クリップで1枚めくるたびに、次の進行表に付け替える）とし、児童が持ち手を引っ張ってめくると、鈴の音が鳴る環境を整えた。
- ・児童自身が、「触っても大丈夫」だと分かり、右手で持ち手を探索するようになった。また、持ち手をつかんだ後に肘を曲げる動作を教えることで、持ち手をより確実に引っ張る動きにつながってきた。

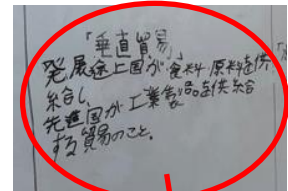
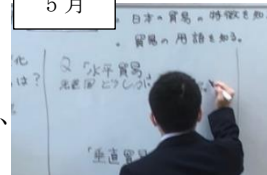


「環境の把握」実践例 目標「決められた空間内に書く」

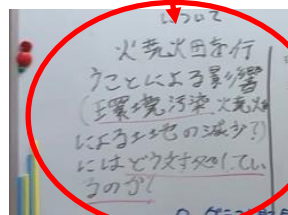
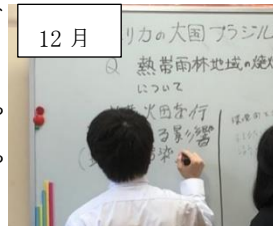
大まかな区切りを手掛かりに、その空間内に書く経験

- ・調べ学習の発表を生徒の板書形式にし、生徒の書く場所をホワイトボード内に線で大まかに指定し、自分で字の大きさや配置を考えて書く場面を設定する（事前に紙面に書いた文章をホワイトボードに書き写す）。
- ・限られた空間に文章を配置して書くための目算や調整力の伸長を図るために適宜評価の言葉掛けや助言をする。

5月



12月



※定期的に機会を設けることで、写真のように書き方が変容した。

「身体の動き」実践例 目標「座位保持椅子や側臥位などの姿勢で10分～20分程度活動する」

姿勢の保持について

- ・座位保持装置で5～10分程、散歩をする。

粗大運動を取り入れた学習

- ・マットの上に仰臥位になり、教師がマットを回し体が回る感覚を味わう。

表情や身体の動きで気持ちを表す学習

- ・教師とやり取りで、身体に触れ合うように工夫し、体を動かしやすいように褥瘡予防シートを使用し、操作しやすいボール等の教材を使った活動やごっこ遊びを行った。

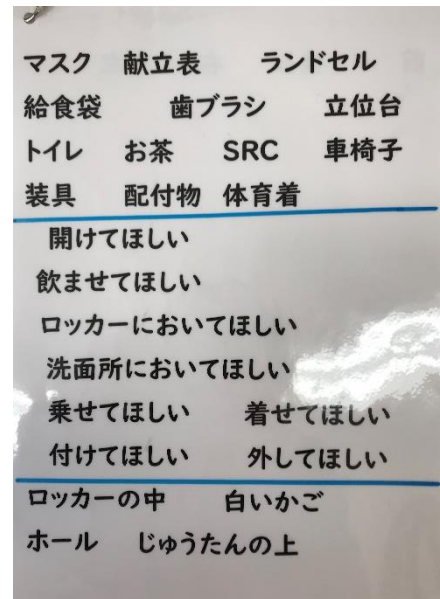
「コミュニケーション」実践例 目標「自分の意見や話したいことを伝える（視線入力装置）」

コミュニケーションカードの作成と活用

- どんな時に泣くのかを、児童本人が分かるようにこれまでの出来事を板書して確認した（支援を依頼したときに伝わらないうと泣いてしまうことを教師と児童で共有した）。
- 伝えたいことを一覧にしたコミュニケーションカードを視線入力装置で作成した。
- 主語と述語を正しく使わないと伝わらないことに気付けるように、コミュニケーションカードは、主語と述語に分けて書くように指導した。



視線入力の様子



コミュニケーションボード

「コミュニケーション」実践例 目標「自分の気持ちや思いを手話や発語で相手に伝える」

自分の好きな物の指差しや発音による伝達

- 学習の様々な場面で選択する機会を意図的に設けて、指差しや発語で意思表示するようにした。
- 教師と一緒に、2～5文字程度の単語を一文字ずつゆっくりと読んだ後に、単語を一まとまりで読む学習を繰り返し行った。



気持ちを表す手話を発語と合わせて使う機会の設定

- 生活の中でよく使う単語（色、曜日、感情、動物、食べ物、学習で使う表現等）を中心に手話の学習を行った。
- 発声の際の口の開け方や舌の動かし方が向上するように、YouTubeの「おくちのたいそうステップ1、2（島田療育センター）」を行った。
- 学級内や家庭でも学習した手話を共有し、関わる人が本人の伝えたいことを理解できるようにした。



「コミュニケーション」実践例 目標「お礼や挨拶を発声や体の動きで伝える」

看護師や他学級の教師と連携した発声機会の設定

- 医療的ケアでの、定時の水分・栄養摂取の際に、担当の看護師が「始めます」「終わりました」と共通した言葉掛けをして、挨拶やお礼の発声のきっかけをつくる。
- 達成度が分かるように、発声の成功時、記録表にシールを貼る機会を設ける。

